

財務状況を全般的に説明する資料

◆ 事業活動収支計算書の予算対比について

教育活動収支の収入は106,056千円の減となり、内訳は、学生生徒等納付金67,026千円の減、手数料1,759千円の減、寄付金271千円の増、経常費等補助金48,478千円の減、付随事業収入5,130千円の増、雑収入5,806千円の増です。学生生徒等納付金の大きな要因は、学生の休学・退学・除籍によるものです。経常費等補助金の減は、特別収支の施設設備補助金44,807千円計上によるものです。

教育活動収支の支出は109,567千円の減となり、内訳は、人件費40,555千円の減、教育研究経費9,705千円の増、管理経費74,577千円の減、徴収不能金4,140千円の減で、人件費・管理経費は節約に努めました。教育研究経費の増は、減価償却費の予算計上漏れで30,364千円の増、奨学費9,824千円の減、旅費6,998千円の減、研修費6,398千円の減です。その結果、教育活動収支は3,511千円の増となりました。

教育活動外の収入は5,186千円の減となり、主に収益事業部の利益収入5,728千円の減です。

教育活動外の支出は2,976千円の減となり、主に借入金等利息の2,865千円の減で、その結果、教育活動外収支は2,210千円の減となりました。

特別収支の収入は、45,272千円の増となり、主に平成保育園の施設設備補助金収入34,488千円の増と大学の私立学校施設設備費補助金10,319千円の増です。

特別収支の支出は26,240千円の増となり、主に資産処分差額の25,887千円の増で、その結果、特別収支は19,032千円の増となりました。

基本金組入前当年度収支差額は20,333千円の増となりました。

基本金については、基本金組入額126,000千円を計上しておりましたが、収益事業部へ土地・建物を移行した結果、基本金取崩額を145,429千円計上しました。

◆ 事業活動収支計算書の前年度対比について

教育活動収支の収入は103,742千円の減となり、内訳は、学生生徒等納付金148,596千円の減、手数料761千円の増、寄付金2,048千円の増、経常費等補助金28,199千円の増、付随事業収入17,221千円の増、雑収入3,375千円の減です。学生生徒等納付金の大きな要因は、学生数の減少で減額となりました。寄付金・経常費等補助金の増は各学校が寄付金・経常費等補助金の獲得に努めた結果です。

教育活動収支の支出は28,029千円の増となり、内訳は、人件費10,834千円の減、教育研究経費9,399千円の増、管理経費28,604千円の増、徴収不能額等860千円の増で、人件費の内訳は、教員人件費42,138千円の減、職員人件費32,718千円の増、退職金等1,414千円の減です。

教育研究経費の内訳は、賃借料11,821千円の増、報酬委託料8,573千円の増、減価償却費6,638千円の増、奨学費31,731千円の減、その他14,098千円の増です。管理経費の内訳は、報酬委託手数料20,366千円の増、広報費7,355千円の増、修繕費5,451千円の増、減価償却費減5,580千円の減、その他1,012千円の増です。

その結果、教育活動収支差額は131,771千円の減となりました。

教育活動外の収入は64,909千円の減となり、内訳は、受取利息・雑収入68,481千円の減、収益活動事業収入3,572千円の増です。

教育活動外の支出は借入金利息等4,225千円の減です。その結果、教育活動外収支差額は60,684千円の減となりました。

特別収支の収入は45,684千円の増となり、内訳は、現物寄付877千円の増、施設設備補助金44,807千円の増、支出は資産処分差額等25,693千円の増となりました。その結果、特別収支差額は19,991千円の増となりました。

基本金組入前当年度収支差額は172,464千円の減となりました。

基本金については、昨年度基本金組入額157,395千円に対して、今年度は基本金取崩額145,429千円となりました。